

II 国語

正答表並びに採点上の注意 追検査

(令和五年度)

問一									
(ウ)	(イ)				(ア)				
	d	c	b	a	d	c	b	a	
2	1	4	2	1	3	3	4	2	
4点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	

問二					
(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)	(カ)
3	4	3	1	2	1
4点	4点	4点	4点	4点	4点

問三								
(ク)	(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	2	4	2	3	1	1	3	4
4点	4点	4点	4点	4点	4点	2点	2点	2点

問四			
(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	1	2	3
4点	4点	4点	4点

問五																															
(イ)	(ア)																														
<p>魚介類の消費量を減少させないよう にするために、消費者は</p> <table border="1"> <tr> <td>魚</td><td>介</td><td>類</td><td>を</td><td>食</td> </tr> <tr> <td>べ</td><td>る</td><td>こ</td><td>と</td><td>が</td> </tr> <tr> <td>健</td><td>康</td><td>維</td><td>持</td><td>に</td> </tr> <tr> <td>役</td><td>立</td><td>つ</td><td>こ</td><td>と</td> </tr> <tr> <td>や</td><td>簡</td><td>便</td><td>な</td><td>調</td> </tr> <tr> <td>理</td><td>法</td><td>を</td><td>知</td><td>る</td> </tr> </table> <p>ことが必要だといえます。</p>	魚	介	類	を	食	べ	る	こ	と	が	健	康	維	持	に	役	立	つ	こ	と	や	簡	便	な	調	理	法	を	知	る	1
魚	介	類	を	食																											
べ	る	こ	と	が																											
健	康	維	持	に																											
役	立	つ	こ	と																											
や	簡	便	な	調																											
理	法	を	知	る																											
6点	4点																														

(イ)は正答例。

採点上の注意

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）がある場合と、表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。

○ 問五(イ)について

- ・ 得点項目A 内容については、次の二点に触れていること。

(あ)「(魚介類を食べることが)健康維持に役立つ」こと。

(い)「(魚介類の)簡便な調理法を知る」こと。

〈正答例〉

魚介類の消費量を減少させないようにするために、消費者は

魚介類が健康維持に役立つことを理解し、…簡便な調理法を知る

ことが必要だといえます。

20

30

魚介類の消費量を減少させないようにするために、消費者は

簡便な調理法を知り、魚介類が健康維持に…つながることを理解す…る

ことが必要だといえます。

20

30